

2025年5月

第176号

# ぱれっと



㈱北日本ベストサポート  
TEL 018-883-1888

## 「若手そろい踏み当選」

秋田県では4月6日秋田県知事並びに秋田市長選挙が執り行われた。

知事選挙は元副知事の猿田知三氏(62歳)と元県会副議長の鈴木健太氏(49歳)の事実上の一騎打ち。公示直後は、猿田氏は副知事として佐竹前知事を支え、選挙戦に入って佐竹前知事も猿田氏の支持を表明、政党では立憲民主党・国民民主党、共産党などが推薦し、秋田県出身で秋田高校から慶応大学に進み野球部キャプテンを務め知名度も高く有利な環境のもとで選挙戦に突入した。

一方鈴木氏は大阪府出身、京都大学卒業後自衛官となり、奥さんの出身県である秋田市へ転居、司法書士の資格を取得、自民党から県会議員に挑戦、3度当選(うち2回はトップ当選)し副議長の地位にあった。

秋田県自民党県連は自主投票となり、自民の分裂選挙となった。猿田氏は政党や企業等幅広い支持を集め組織力で有利に選挙戦を展開した、一方、鈴木氏は自民党を離党し全県一円で小集会を開催し、一人ひとりを掘り起こすような選挙戦を展開した。両者の間では政策に大きな相違が見られず、佐竹前知事の後継的立場の猿田氏と「刷新」と「秋田の未来を拓く人口減対策」をかかげた鈴木氏がかつぷりと組み合う四つ相撲の展開。メディアも選挙戦の途中予測の発表は無かった。しかし、選挙当日は開票が始まる午後8時に鈴木氏の当選確実が報道され、鈴木氏 273,270票、(58.4%)、猿田氏 189,382票(40.5%)の大差で鈴木氏の当選が確定した。終わってみれば全県市町村で2町を除き鈴木氏が勝利、完勝に終わった。

一方、秋田市長選挙、5期目を目指す現職の穂積志氏(68歳)と元秋田県会議員の沼谷純氏(52歳)の一騎打ち。4年前も両者が戦い穂積氏に軍杯が上がった因縁の対決。こちらは前回同様サッカー場などを含む外旭川地区再開発を掲げる穂積氏と前回沼谷氏は同様の施策を掲げていたが今回は物価高など環境が変わったと外旭川地区再開発を事実上白紙に戻し検討するとしてサッカー場建設が争点となった。が、多選批判を訴えた沼谷氏が圧勝した。現職を破り当選したのは実に1971年以来54年ぶりのことである。

秋田市長選挙は投票1週間前くらいに沼谷氏有利の報道がなされたが、得票は沼谷氏 98,049票(65%)、穂積氏 51,808票で沼谷氏の圧勝だった。

今回の両選挙で言えることは、当選した両名は49歳と52歳。これまでの秋田では長老支配が目立っていたが人口減や高齢化が進み、これからの秋田を新しい視点で見つめ思い切った施策を打ち出して欲しいとの切なる県民の声が聞こえるような気がする。若者と女性が活躍できる社会の構築が秋田を蘇らせる最善の道に見えるがどのように秋田を作り替えてくれるのか楽しみだ。

## 疲れたと感じたら、考えない、思わない

ニーチェの言葉

いつものように毅然としていられなくなったら、疲れている証拠だ。  
疲れていると、わたしたちは溜め息をつき、愚痴を口にし、後悔を口にし、ぐるぐるとしたようなことを考え、そのうち憂鬱なことや暗いことが頭の中を勝手に動き回るようになる。

それは毒を吸うようなことだから、疲れたと感じたら、考えることをやめ、休んだり寝たりするに限る。

そして、また毅然として活動できるように明日に向かって備えよう。

【悦ばしき知恵】



## ニセ教師の教えること

ニーチェの言葉

この世には、いかにもまともそうに見えるニセ教師がたくさんいる。  
彼らが教えることは、世渡りに役立つことばかりだ。これこれをする  
と得になる。こういう判断をすると損をしない。人づきあいはこういうふうにしろ。  
人間関係はこうやって広げろ。こういう事柄はああだこうだ。

よく考えてみよう。ニセ教師の教えることは、すべて価値判断だ。

人間と事物についての本質の見方など、これっぽっちも教えてくれはしない。

こうして人生の本質すらわからずに生きていっていいのかな。

【力への意志】



## プロフェッショナルになりたいなら

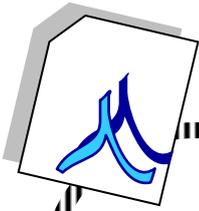
ニーチェの言葉

何かのプロフェッショナルになろうとするのなら、あらかじめ克服しておかなければならないことがある。

それは、性急さ、短気さ、意趣返しなどを含めた報復欲、情欲といったものだ。  
自分の中に潜んでいるこれらを容易に排斥できたり、コントロールできるようになってから、事に取りかからないといけない。

そうでないと、いつかこれらが氾濫する川のうねりのようになって暴れくるい、すべてを台無しにしてしまう可能性があるからだ。

【漂泊者とその影】



## ジークムント・フロイト (オーストリアの心理学者・精神科医)

- 1856年5月6日 オーストリア帝国・モラヴィア辺境伯国のフライベルクで毛織物商人ヤーコブ・フロイトの子として生まれる。母親はユダヤ法学者の子孫として伝えられている。
- 1859年 3歳の時ウィーンへ転居。
- 1873年 ウィーン大学に入学。物理学・医学部の生理学研究所で脊髄神経細胞を研究。  
その後、脳性麻痺や失語症を臨床研究し論文発表。
- 1881年 25歳。ウィーン大学卒業。
- 1885年 パリで神経学者ジャン＝マルタン・シャルコーのもとで催眠によるヒステリー症状の治療法を学んだ。
- 1886年 ウィーンへ帰り、シャルコーから学んだ催眠によるヒステリーの治療を実践。「男性のヒステリーについて」医師会に論文を発表した。  
最終的にたどりついたのが自由連想法と言われるもので、この治療法を精神分析と名づけた。
- 1895年 39歳。ヒステリーの原因は幼少期に受けた性的虐待によるとする病因論並びに精神病理を発表。
- 1909年 クラーク大学創立20周年式典で講演、公演後博士号を授与。
- 1910年 「国際精神分析学会」設立。
- 1923年 精神分析における体系的論文「自我とエス」を発表。
- 1931年 医師協会が名誉会員に指名。生家に銅板を貼り名誉を記念。
- 1939年9月23日 ロンドンで癌のため逝去。享年83歳。  
マルクス、ダーウィンとならんで20世紀の思想に大きな影響を与えた人物の一人とされている。

### オススメの *BOOK*



「PRIZE」 = プライズ

作者 村山 由佳 出版社 文芸春秋

作者は1964年生まれ。立教大学卒行後、93年「天使の卵エンジェルス・エッグ」で小説すばる新人賞受賞。2003年「星々の舟」で直木賞受賞。

本書の PRIZE は榮譽があるの意。小説家天羽カインは様々な賞を受賞しているベテラン作家。出版社、編集者などか群がる。これまでの編集者に比べて現在の編集者とは呼吸がぴったり。しかし、編集者が独自に筆をくわえたことに激怒し直木賞の受賞を辞退する……。

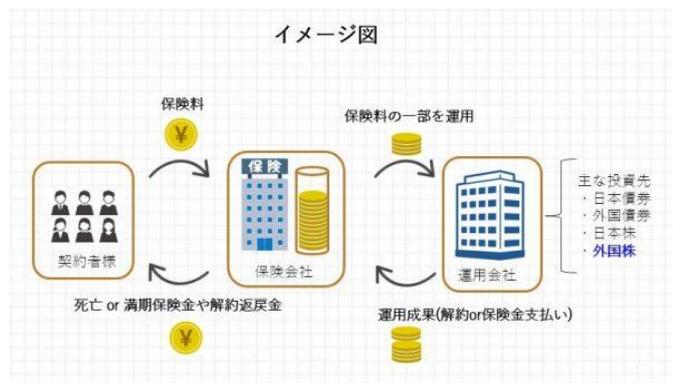
## 変額保険

日本が抱えている経済問題の一つが「老後の資金不足」です。高齢化が進み平均寿命が上がる一方、年金受給額は上がらず、老後も働かなければならない…。この問題に対して、iDeCo・NISAなどを活用する動きも一般的になってきました。そんな中、資産形成の手段の一つとして注目されているのが「変額保険」です。生活にまつわるリスクに対して保障として備えるのが一般的な保険の意義ですが、この変額保険については、お客様のご希望のプランで資産運用を行い、外貨を含む老後の資産形成にご活用いただけます。

定期保険とは異なる特徴を持つのが変額保険です。満期保険金や解約返戻金などを含め、受け取るときの保険金総額が加入時に決まっているのが「定期保険」、加入時に決まっているのは最低限額を保証されている死亡保険金や高度障害保険金（基本保険金額）のみで、それ以外の保険金額については変動する可能性のあるのが「変額保険」です。

変額保険にも種類があり、保険期間が一定の「有期型（変額有期保険）」と、一生保障が継続する「終身型（変額終身保険）」があります。また、個人年金保険の変額タイプもあります。

運用次第で資産を増やすこともできれば、反対に元本割れすることもあるので、プロに相談しながら着実に運用することが大切です。積極的にリターンを求めるとその分リスクも伴います。目的地に早く到着するために車のスピードを出しすぎる（リターンを求めると事故を起こす可能性が高まるのと同じです。ご自身のお考えに合わせて許容できる運用方法なのかを確認しましょう。



### 【編集後記】

やっぱり春はいい。明るい躍動感がある。桜前線が北上してくる。  
新入生・新しく社会人となった新社員皆ピカピカに輝いている。  
あまり肩に力を入れずリラックスして日々を過ごして欲しい。必ず雨の日も風の日も訪れるのだからどんな環境にも負けない強い心をもって欲しい。  
人生山あり谷ありそれを乗り越えていくところに喜びがある。